

白岡市長賞

「納税の大切さ」

白岡市立南中学校3年

細井 淳帆

学校からの帰り道、工事現場で働いている外国人にカタコトの日本語で「こんにちは」と言われた。私も「こんにちは」と返すと、ふと工事の看板が目に入った。そこには、新しい歩道が作られると書いてあった。私はその後も働いている外国人と簡単な英会話をした。ここは用水路で歩道が整備されておらず登下校するときは車道側を歩くしかなくてとても危険だった。工事が完了すると、用水路が塞がれ安全に通れるようになる。看板を見ると発注者に白岡市と書いてあった。ということはきっと税金が使われているのだろう。実際に身近なところで税金が使われているところを見たのはこれが初めてだった。

それから毎日のように工事現場で働いている人と簡単な英会話を交わすようになった。聞けば、アフリカのカメルーンからわざわざ日本にやってきたのだという。何で日本に働きに来たの、と聞いてみると、日本は安全で街が綺麗だからね、と言った。そうか、それは当たり前前の環境ではないのかと実感した。

日本は道路が整備されていて毎日安全な道で登下校できている。その道路を整備するために必要不可欠なのが税金だ。税金と聞くと嫌なイメージの人

が多いと思う。実際、私も詳しく調べてみる前まではそうだった。例えば、百円ショップ。消費税のせいで、本当に支払わなくてはいけない金額は百十円だ。今まで何度も「消費税を払うんだろう」と思っていた。でも税金というのは私たちの暮らしがより良くなるために使われているお金である。決して無駄なことに使われている訳ではない。もし、税金がなくなったら壊れている道路はそのままだし、事件が起きても警察は対処してくれない。また、学校に通うにもお金がかかってしまい、平等に教育が受けられない。納税を嫌がる人は多いが、それは税金が何に使われているのか理解している人が少ないからだと思う。税金がなければ、私たちの暮らしは成り立たない。だから税金は存在するのだ。納税をするのは日本人だけではない。外国人労働者であっても、納税義務がある。私達が快適な暮らしが送れているのは税金のおかげなのだ。私は自分たちの暮らしを守ってくれる税金に感謝の気持ちが芽生えた。

工事が終わり、安全に整備された歩道で通学するようになった。今までなら、新しい道路ができているな、というだけで終わってしまったと思う。税金について詳しくなり、大人の階段を一つ登れた。私は自分が税金にとっても支えられていることを実感した。今度は私が支える番だ。大人になったら私も納税を欠かさず行っていきたい。